

伊賀市議会行政視察報告書

伊賀市議会議長 様

報告者

議員名 宮崎栄樹

参加者名 宮崎栄樹

①

視察日時

5月17日9時30分

視察先

長野県伊那市

視察事項

移住・定住の取り組み

【研修の成果】

○視察の目的

自治体間における移住者の獲得競争が激しくなっている中で、田舎暮らしの本「住みたい田舎ベストランキング」で毎年上位に選ばれる伊那市の移住・定住施策の取り組みについて学び、伊賀市の移住・定住施策の参考にするため。

○長野県伊那市の概要

人口68,000人、総面積は667.93㎢（東西37.2㎞・南北44.7㎞、県内3番目の広さ）。2006年に伊那市、高遠町、長谷村が合併し、現在の伊那市となった（旧高遠町、旧長谷村は過疎地域となっている）。伊那市は、南アルプスや中央アルプスに囲まれ、その間を流れる天竜川や三峰川沿いには平地が広がり河岸段丘もみられるなど、豊かな自然に囲まれている。一方、市内を南北にはしる中央自動車道や国道などの幹線道路が整備され、東京・名古屋のほぼ中央に位置していることから、商工業にとって優良な立地条件である。

○視察内容

【各計画等】

伊那市では、効果的で独自性のある移住施策を戦略的に展開するため、2013年に「移住・定住プログラム」（前期2014～2018、後期2019～2023）を策定し、先駆的に移住・定住施策に取り組んできている。このプログラムは、SWOT分析を用いて、伊那市の外部環境や内部環境を強み、弱み、機会、脅威の категорияにわけて要因分析することを始め、全庁的に既存施策のブラッシュアップと実施強化を図るとともに、地域資源の洗い出しと新たな利活用を進めることや、移住・定住の促進に向けた新規事業の実施、更には、地域おこし協力隊や集落支援員の活用など、多様な切り口から「できることは何でもやる」という伊那市の姿勢が伺えるものとなっている。

2014年に策定した「シティプロモーション戦略」（2015～2019）では、市内外に伊那市の魅力を発信し、「伊那市で暮らしたい」という意識の醸成と行動を促すことに力を入れている。

2015年には、「地方創生総合戦略」（2015～2019）が策定され、「移住・定住プログラム」と「シティプロモーション」は、この戦略に軸足を置きながら進められている。

その他、2016年に策定された「伊那市地域定住自立圏ビジョン」（2016～2020）では、近隣の3市町村と連携し、空き家バンク、子育て支援、行政区域間縦断路線バスの運行などの取り組みを進めている。

【主な取り組み】

①過疎地域定住促進補助金

市内の過疎地域と指定された地域（旧高遠町、旧長谷村）に対し定住促進補助金を交付している。内容は、住宅新築増改築補助金、空き家取得補助金、定住助成金、通勤助成金、出産祝金、廃屋取壊し補助金がある。

②田舎暮らしモデル地域（現在2地域）

移住・定住の受け皿として高い意欲を有する自治会単位の地域を「田舎暮らしモデル地域」として指定し、地域、行政、民間事業者などの協働により、移住者に対する受け入れ体制の整備や生活基盤の確立に向けた支援を行っている。支援策として、移住者に対する過疎地域定住促進補助金（廃屋取壊し補助金を除く）に加え、地域に対しても交付金（上限50万円）を交付している。また、宿泊体験ができる「田舎暮らしモデルハウス」が設置されている（1地区のみ）。

③移住準備仮住戸

移住・定住を検討している方に対し、住まい確保や就職のための第一歩として、市営住宅を移住・定住の準備のための仮住宅として提供している。入居期間は原則6か月としている。

④子育て住まい

子育て世代の世帯を対象に、過疎地域に指定される市営住宅（中堅所得者層向け住宅）への入居要件を緩和をしている。また、入居後は家賃軽減される。

⑤集落支援員・地域おこし協力隊

総務省の事業である「集落支援員」・「地域おこし協力隊」を活用し、移住・定住施策に取り組んでいる。集落支援員は3名おり、その内1名は空き家アクティベータとして、空き家の利活用や空き家バンク制度の推進に取り組み、1名は移住・定住コーディネータとして、集落コンサルティング、移住定住トータルコーディネート、地域おこし協力隊のマネジメントに取り組んでいる。地域おこし協力隊は9名で、移住体験ツアーの企画・運営などに取り組むなどしている。

○所感

伊那市の「できることは何でもしよう」という姿勢は大いに勉強になった。例えば、運転免許取得費用の助成といった新たな予算措置が必要な事業も少なくないが、公用車の軽トラのシェアといったあるものを最大限に活かすことも忘れていない。自治体間による移住者の獲得は年々激しくなっており、あらゆる支援策を実行しなければならない状況であることがわかる。そのため、伊那市の取り組みがとても参考になった。

しかし、このような他の自治体に足並みを揃えていくことは必要だと思うが、一方で、現状の移住者獲得競争というのは、最終的にお金がある自治体が生き残っていくことが容易に想像できる。そのため、伊賀市としては、現状の移住者獲得競争にある程度足並みを揃えた上で、全く異なるコンセプト打ち出し、差別化を図る必要がある、ということも強く感じた。例えば、二拠点居住に特化した移住政策など。

更に言えば、伊賀市のキャッチである「豊かな自然のなかにありながら、程よく便利な生活ができること」というのも、伊那市はもちろん、ほとんどの自治体に言えることでもあるため、そういう意味でも差別化を図ることが必要であるように思う。例えば、オーガニックタウン宣言をし、オーガニックに特化したまちづくりなど。

以上のように伊那市での視察は、移住政策の現状の課題から、今後の方向性まで、幅広く考えることができた。今回学んだことを参考にし、より良い提案や問題提起をしていきたいと思う。

費用	旅費： 28240 円	研修参加費：	円	合計： 28240 円
----	------------------------	--------	---	------------------------

27340

27340



旅程明細書

No.

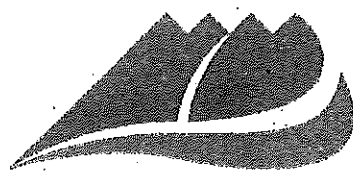
旅行者	所属	伊賀市議会		氏名	宮崎 栄樹				
用務名(目的・場所)	移住・定住の取り組み								
	長野県伊那市役所								
用務従事期間 (時間)	従事 月日	5月 17日		従事 時間	9:30 ~ 11:30				
		月 日			~				
		月 日			~				

出張 月日	出発地 (出発箇所)	交通 用具	到着地 (到着箇所)	鉄道賃・船賃・航空賃・車賃			小計	日当	宿泊料	夕食代	朝食代	
				路程	運賃	急行料金						
5月16日	伊賀神戸	近鉄	近鉄名古屋	km	円	円	円	円	円	円	円	
	名古屋	JR	伊那市	112.2	1,560	1,320	2,880					
5月17日	名古屋	JR	伊那市	213.7	3,670	2,680	6,350		6,000	1,700		
	辰野	JR	名古屋	193.0	3,350	2,680	6,030	1,500				
	近鉄名古屋	近鉄	伊賀上野	112.2	1,560	1,320	2,880					
計							円	円	円	円	円	
							18,140	1,500	6,000	1,700		
							合計	27,340				
											円	

※起点の出発時刻が午前6時以前となるため、前泊とする。

2019年5月17日 三重県議会・伊賀市議会行政視察資料

移住・定住施策について



長野県 伊那市

1 移住施策に係る計画について

(1) 移住・定住促進プログラム

伊那市の人口は、平成 19 年をピークに減少に転じ、社人研における人口推計でも、一層の人口減少が進むものと予想される中、人口減少傾向に歯止めをかけ、効果的で独自性のある施策を戦略的に展開し、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現を図ることを目的に策定。

【概要】

ア 策 定	平成 25 年 10 月
イ 計画期間	前期 平成 26 年度～平成 30 年度 / 後期 平成 31 年度～平成 35 年度
ウ 目 標	自然動態 1.60 前後 (H18～H22 平均)→2.00 (H45) 社会動態 転入促進+転出抑制により、人口推計より年間 120 人の増加
エ 施 策	既存施策の充実+新規重点プロジェクトの展開

(2) シティプロモーション戦略

伊那市が市内外から選ばれるために、生活のあらゆる場面を想定し、市民や都市住民に対し、多用な媒体を通じて伊那市の魅力を発信することで、「伊那市で暮らしたい」という意識の醸成と行動を促し、定住の地として選ばれる地域に導く。

【概要】

ア 策 定	平成 26 年 11 月
イ 計画期間	平成 27 年度～平成 31 年度
ウ 目 標	市内 「郷土への誇り」、「愛着心」の向上による定住促進 市外 「知名度」「認知度」「好感度」の向上による移住者の獲得
エ 施 策	情報発信の強化+アクションプランの展開

(3) 地方創生総合戦略 (1)、(2)の策にこまめ、転入を促すため

若い世代の就労、結婚、子育ての希望の実現、東京一極集中の歯止め、地域の特性に即した地域課題の解決により、将来にわたって活力ある社会を維持することを目指す。

ア 策 定	平成 27 年 10 月
イ 計画期間	平成 27 年度～平成 31 年度
ウ 目 標	自然動態 1.44(H22) →2.07 (H52) 社会動態 転出超過 (H22 -304 人/年) →転入超過(H52 200 人/年)
エ 施 策	日本を支えるモデル地域構想の推進

(4) 伊那地域定住自立圏共生ビジョン

経済や生活の結びつきが強い近隣自治体との連携を深めながら、「伊那地域定住自立圏」の形成を進め、将来にわたり地域住民が安心して暮らせる魅力的な地域づくりを目指す。

ア 策 定	平成 28 年 8 月
イ 計画期間	平成 28 年度～平成 32 年度
ウ 市 町 村	伊那市、箕輪町、南箕輪村
エ 主な施策	空き家バンクの連携、子育て支援の連携、行政区域間縦断路線バスの運行等

●起業・創業支援に向けた現在の取り組み

◆「創業支援事業計画」の認定

平成26年1月20日に施行された産業競争力強化法に基づき、地域における創業の促進を目的に策定した計画です。(伊那市の計画期間：平成28年12月26日～平成36年3月31日)

国の認定を受けたことにより、市が認定連携する創業支援事業者(伊那商工会議所及び商工会)が行う創業支援事業の経費に対する国の助成や、創業者の初期投資費用等について地方公共団体が助成する経費に対し、国からの交付金を受けることができます。

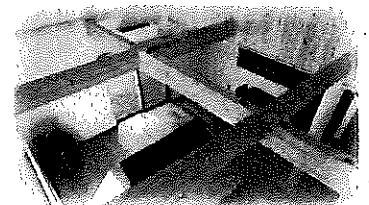
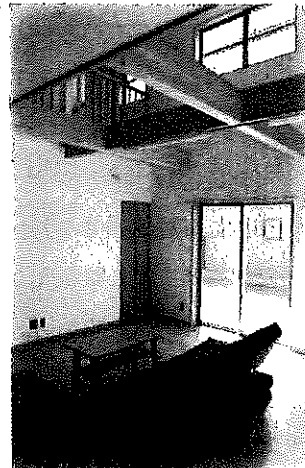
また、創業支援事業計画に定める「特定創業支援事業」を受け、市から証明書を交付された創業者は、登記に係る登録免許税の軽減や信用保証枠の拡大などの支援策を受けることができます。

◆創業支援連絡会議の設置

後継者不足等による廃業や空き店舗の増加といった課題解決に向け、市内創業支援関係機関(商工団体・金融機関・税理士)等との連携体制の強化及び情報共有を図ることで、スムーズに創業が実現できる仕組みづくりなどを研究することを目的に設置した組織です。

◆「パノラマオフィス」(サテライトオフィス)の設置及び運営

平成29年度において、新規にサテライトオフィス等に供する施設を整備し、県外からのICT関連企業への貸し出しを開始しています。将来的には、企業による本格的な拠点設置や移住に結びつけるとともに、地元雇用の創出につなげていきます。



1 事業者 100 誘致

2 転 2 棟 誘致

領収書等添付用紙	議員名	宮崎栄樹
調査研究費・研修費・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費 人件費・事務所費 (該当項目に〇をつけてください。)		

領収書 No.20823333
Receipt 宮崎栄樹 様

領収年月日 2019. 5. 16
金額 ¥2,880-

上記金額確かに領収いたしました

購入商品
乗車券等
Tickets

近畿日本鉄道株式会社
19- 5-16 11:02:19 横神戸208

印紙税申告納
付につき天王寺
税務署承認済

領収書 宮崎栄樹 様
Receipt

領収年月日 2019.-5.16
金額 ¥6,350 (消費税等込み)

上記金額確かに領収いたしました

購入商品 JR乗車券類 JR tickets

(20058, 2枚)
東海旅客鉄道株式会社
名古屋駅
名古屋MV404発行 30059-02

印紙税申告納
付につき名古屋中村
税務署承認済

伊賀神戸～名古屋

運賃 1,560円 }
指定席 1,320円 } 2,880円

名古屋～伊那

運賃 3,670円 }
指定席 2,680円 } 6,350円

領収書 宮崎栄樹 様
Receipt

領収年月日 2019.-5.17
金額 ¥6,030

上記金額確かに領収いたしました

購入商品 JR乗車券類 JR tickets

(00126, 2枚)
東日本旅客鉄道株式会社
辰野駅
辰野駅VF発行 10127-02

印紙税申告納
付につき渋谷
税務署承認済

領収書 宮崎栄樹 様
Receipt No.40903420

領収年月日 2019. 5. 17
金額 ¥2,880-

上記金額確かに領収いたしました

購入商品
乗車券等
Tickets

近畿日本鉄道株式会社
19- 5-17 21:25:33 名古屋409

印紙税申告納
付につき天王寺
税務署承認済

辰野～名古屋

運賃 3,350円 }
指定席 2,680円 } 6,030円

名古屋～伊賀神戸

運賃 1,560円 }
指定席 1,320円 } 2,880円

ご請求明細書

Amount Description

ホテルセンピア伊那

TEL 0265-77-1002

FAX 0265-77-1003

ありがとうございました。またのご利用をお待ち申し上げます。

客室番号 Room No.	お名前 Name Of the Guest	人数 Pers	ご利用日 Date
1507	Mr. 宮崎 栄樹 Ms. 様	1	19.05.16 - 19.05.17(1泊)

日付 Date	摘要 Description	料金 Charges	お支払 Payment	備考 Remarks
05.16	チェックインデポ(現金)		CA 6,000	
05.16	ご宿泊代 SB	6,000		
小計 Sub Total		6,000	6,000	
		(内消費税 Con.Tax ¥444)	ご請求額 Balance Due	
			ご返金額 Refund	

ご署名
Signature

会社名
Firm

発行No. 079613
No. 201905170034
発行日 2019.05.16
616 CA 1

ホテルセンピア伊那
<http://www.cenpier.com/>
(1/1)

領収書 Receipt

No. 201905170034
2019.05.16

宮崎 栄樹 様

¥6,000

(内消費税 Con.Tax ¥444)

上記正に領収致しました
但、

19.5.17
HOTEL Cenpier

ホテルセンピア伊那
〒396-0014 長野県伊那市狐島区4819
TEL 0265-77-1002 FAX 0265-77-1003